

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）13:00～14:40

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 18

さいたま市に住んでいる●●と申します。よろしくお願ひします。今日、ちょっと、畑で一生懸命練習したんですけども、ちょっとおぼつかないので、見栄を張らずにちょっと、読ませて頂きます。少し、私の概要と、少し順番が違っていますので、あしからずご了承下さい。

私はこれまでハッ場ダム予定地に 3 回行ってきました。それから検討の場の幹事会は 4 回傍聴させて頂きました。これまでの活動として埼玉の入間川の上流で川を守るために名栗川というところですね、水生生物の調査を 6 年間行ってきましたので、自然保護の観点から意見を述べさせて頂きます。今回の検討報告書の素案、概要版で感じたことなんですけれども、ハッ場ダムの最終の目的というのがありますけれども、そのうちの利水とか発電については、もう、目的を達しないことが分かっていると思います。利水では今後の人口減少、それから節水機器などの普及などから、水需要予測を下方修正したもので検証すべきなのに、この検討報告書には表現されていません。また、発電については現在、既に予定地近くに 3 つの発電所があり、ハッ場ダムが完成すると、水力発電に回される水量が大幅に減るため、東電は減電補償を請求することになります。このダムは目的の段階から破綻していると思います。今後も渇水はあるかもしれませんが、そういう時には地下水を利用したり、今年の夏、みんなで節電して原発無しで乗り切ったように知恵を出し合って暮らしていけると思います。それから、9 月に被災地に行って感じたこととお話します。娘が今年 6 月から 5 ヶ月間、仙台を拠点とする支援プロジェクトで支援活動をしてきました。私も報道で知るだけでなく、実際に自分の目で被災地の状況を見てきたいと思い、9 月 20 日に石巻と女川に行きました。被災地に自分の足で立ってみて、その被害の大きさに言葉を失いました。ことに女川の状況はむごいもので、自然の猛威を目の当たりにして、ただ、たじろぐだけでした。そして、この復興にはどれだけの時間と費用がかかるのだろう、と申しましたし、被災された方々の心の復興は気の遠くなるような時間がかかるのでは無いかと思いました。次の日の 9 月 21 日、宮沢賢治の命日で 77 回目の命日なんです。花巻で行われた賢治祭に参加し、小岩井農場にも行きました。宮沢賢治と津波の縁は深く、生まれた年の明治 29 年に明治三陸大津波、亡くなった昭和 8 年に昭和三陸大津波が襲ったということでした。賢治の童話に「狼森と策森、盗森」という話があります。「おいの」とは狼です。「ざる」は策ですね。「ぬすつと」は盗人です。この童話はとっても短いんですけど、とても含蓄のある童話なので、ぜひ、読んでみて下さい。この 3 つの森が小岩井農場の北にあって、岩手山の噴火の後に出来たそうです。開拓に入った農民が森に「ここへ畑をおこしてもいいかー？」と言うと、森が一斉に「いいぞー」と答えます。また、「ここに家、建ててもいいかー？」と聞くと、「いいぞー」と一斉に答えます。半世紀以上前に国が、「ダムを造っていいか〜？」、と言った時に、吾妻溪谷は「いいぞ」、と答えたのでしょうか。山や森に住む生き物たちが「いいぞ」と言ったのでしょうか。地元の方々には長いこと「ダメだー」と言ってきましたね。それを国はねじ伏せてきたのだと思います。これまで自然と折り合って暮らしてきた人々の人間関係もズタズタにしてしまったのではないのでしょうか。今回の検討報告書の中には、過去の噴火した浅間山の大噴火のことが何も検証されていません。今年 3 月 11 日に起こった未曾有の東日本大震災の被害の大きさを考えた時に、浅間山の噴火に

関する検証は加えなければならないと思いますし、巨大地震が起こった際のことにも検証する必要があると思います。その他にも最近のゲリラ豪雨のことも加えるべきだと思います。8月29日の幹事会を傍聴して感じたことをお話しします。この日に目的別の総合評価が出ました。驚いたことに治水・利水・洪水調節など全ての面でダム案がベストということになっていました。新規利水の中の富士川導水には本当に驚きました。私のようなただのおばさんでもこのような例を挙げて、ダム案に持って行こうとするようなことは、とてもおかしい事くらい分かります。国土交通省の説明の後、各県の方々の意見も、こういう事をいつまでもやっていないで、早くダムを造って、という主旨のものでした。どうか、このような結論ありきのような検証ではなく、第三者機関を設置して、客観的な検証が出来る専門家を加えて、もう一度、検証して下さい。人間よ、目を覚ましなさい、と言っている自然からの声が聞こえるのです。さらに山を下りる英断を求む、ということでお話しさせていただきます。8月に八ッ場ダム建設予定地を見に行きました。豪雨の後の土砂崩れの後なども生々しく残っていました。そこで感じたことは、今、この状態でダム建設を止めて欲しいと切に思いました。半世紀以上、国に翻弄された地元の方々の生活再建を最優先にして、後の税金は東日本大震災の復興のために使って欲しいと願います。ダム建設を止めるとなると、国や自治体の方は「負け」だ、と思われるかもしれませんが、私は「勝ち」になると思います。今、この地球に住んでいる私たちは未来の子供達からこの自然を借りているのだと思います。借りているなら、出来るだけ地球を汚さないように、壊さないようにしなければ子供達にツケを回すこととなります。3.11以降、私たち一人一人の大人がどのような選択をしていくか未来の子供達から見つめられているのではないのでしょうか。どうか、山を途中で下りる勇気を持って下さい。以上です。

で、ちょっと少しお話しさせていただきますけれども、ほんとに、その、私なんか、あちこち行政の方とお話しにいく時には、行政の方を憎らしいと思って言っただけではないんですね。でも、このことについては譲れませんよ、という、そのことだけ訴えて、行政の方々とお話をしています。環境省にも行きますし、消費者庁にも行きますし、色んなところに行っていますけれども、そういうお付き合いが出来れば、喧嘩にはならず、良い方向を目指していけると思っています。上田知事にも個人的に手紙を差し上げましたし、あんまり良いご返事は頂けませんでしたけれども、今回のことで、いろんな立場の方、いろんな利害の方がいらっしゃると思うんですけれども、やっぱり、子供達のためにという、未来の子供達のために、そのことだけで寄り添って頂ければありがたいと思います。以上です。

以上